

2012年3月期 決算説明会での主な質疑応答内容
(2012年4月27日実施)

【ソーラーエネルギー事業】

Q：国内市場でのシェア目標を教えてください。また、国内市場が2倍に伸びるなかで、生産能力は足りるのか。

A：当社は国内公共産業用でトップシェアで、現在35%程度のシェアと推測しており、現状のシェアを維持していきたいと考えている。市場規模は、今期は前期比2倍と示したが、今後決定される再生可能エネルギー法での電力買取価格や期間により変動する可能性がある。

生産能力については、2012年3月期は期初に年産800MWを目標としていたが、期中に急激に市場が悪化し、設備投資を止めた。一部の設備は入ってきたものもある。生産能力の増強については、客先要求に応えられるよう行っていく。

Q：ソーラーエネルギー事業はいつから黒字化となる計画か。

A：4月から黒字化する予定。現在の製品価格、原材料価格であれば確実に今期利益が出る。

Q：ソーラーエネルギー事業での大きな引き合いは、どの程度あるのか。京セラが発電事業として参入できるものなのか。

A：鹿児島市七ツ島の案件以外に発電事業で決定しているものはないが、チャンスがあれば積極的に行っていきたい。

Q：2012年3月期の製品価格下落はどの程度だったか。また、2013年3月期はどのような見通しを持っているか。

A：2012年3月期は現地通貨ベースで、海外では欧州を中心に30%程度下落。円換算し為替の影響を含めると35%以上は下落した。日本についても、欧州での価格下落の影響もあり、20%程度は落ちた。

2013年3月期は為替の円安影響で価格下落ペースは緩やかになってきているが、まだ若干落ちている。競争次第だが、年間では10%程度下落を予想している。

Q：国内外の売上高比率は2012年3月期から2013年3月期でどのように変化するのか。

A : 2012 年 3 月期は、国内が 60%弱。2013 年 3 月期についてはメガソーラー案件が出てくるため、国内の売上比率が圧倒的に大きくなるだろう。イメージとしては、国内比率が 70%+ α になると思う。

Q : ソーラーエネルギー事業の海外売上が縮小するという事か。

A : 市場は確実に小さくなる。当社は、適正な価格で売れるところでしっかり伸ばしていく。

Q : 1 月に在庫調整を実施した後、稼働率を上げたと思うが、3 月の稼働率について教えてほしい。また、4-6 月の稼働率はどの程度になる見通しか。

A : 1 月頃にメガソーラー等の案件が出始め、稼働を上げる準備を始めたが、前工程から引き上げるので、実際にモジュールの稼働が上がったのは 3 月。足下の稼働率はモジュールベースで 80%程度。

Q : 現状のメガソーラー案件の受注はどの程度の確度があるものか。例えば 7-9 月までは確定していると考えてよいか。

A : 現状、引き合いは多いが、注文には結びついていない。再生可能エネルギー法の電力買取価格や期間が決定しないと、土地の手当てや出資者への配当の計算等、詳細な精査ができない。
引き合いがある中で、動きの早い客先からは注文が入っているが、大半の受注は 7 月以降に入ってくるものと考えている。

Q : 国内市場への海外メーカーの参入の影響をどう見ているか。

A : 海外メーカーでは、特に中国、台湾メーカーが大きな競合相手になる。海外メーカーは、値段の安さである程度のシェアは取っていくと思うが、実績を見ると、住宅向けに参入してきた海外メーカーのシェアは大きくはない。日本市場は品質に対する考え方が海外市場とは異なる。

Q : 国内で電力買取制度 (FIT) が始まるが、欧州での FIT がうまくいかなかったという実例がある。中長期的な観点で FIT のリスクをどう見ているか。

A : ドイツで FIT が問題になっていることは認識している。ドイツでは、個人の負担が当初計画よりも大幅に増えてしまったことが問題であった。しかし、FIT は国家のエネルギー政策なので、日本政府が国民の負担を考え、長期的な視点から計画し、国民の理解を得られるようにしっかりと制度を作ってもらえれば問題は無いと考えている。

Q：鹿児島でのメガソーラー発電事業について、内部収益率（IRR）はどの程度なのか。IRRは初期費用によって大きく異なると思うが、太陽電池の値段は住宅用と比べてかなり安くなるのか。

A：鹿児島の件は、現在、基本合意を締結したところであり、詳細は開示できない。これから計画を詰めていく部分もある。70MWという非常に大きな案件なので、2013年3月期中に全て設置するのは難しいかもしれない。そうすると、来年度の補助制度がどうなるかで計画が変わる可能性がある。太陽電池の価格については、家庭用よりも安くなる。

Q：ホームエネルギーマネジメントシステム（以下、HEMS）の2013年3月期売上への貢献はどの程度か。また、どのような仕組みで売っていくのか。ハウスメーカーと組んで売ることか。

A：当社の蓄電システムは非常用として使用が可能。また、夜間電力を貯めて、太陽光で発電した電気を売電に回せる。この仕組みで投資コストの回収期間が短くできる。当社のHEMSはハウスメーカーへ提案しており、非常に興味を持っていただいている。当社のHEMSはとても性能が良く、電池は世界最高容量で信頼性が高く、コストパフォーマンスにも優れている。これまでは、国内住宅向けには太陽光発電システムのみ販売していたが、太陽光発電システムとHEMSをセットで販売することで、シェアを拡大できると考えている。販売台数は、2013年3月期に数千台は出せると考えている。

【通信機器関連事業】

Q：海外携帯電話端末事業は2月から黒字化したということだが、同事業の2013年3月期予想と、予想達成のための戦略を教えてください。

A：海外の携帯電話端末事業で2012年3月期に想定外だったことは、大手客先がiPhoneを導入したことにより、当社の従来製品や用意していた新製品をあまり出せなかったこと。2013年3月期は利益を出す計画である。現在の問題は一つのキャリアに売上が集中し過ぎていること。他のTier1キャリアに参入したいと考えており、2013年3月期に製品を開発しモデルを提案、2014年3月期に採用してもらえるように展開していく。2013年3月期はTier2の新規中小キャリア複数社へ展開していく。

【部品事業】

Q：部品全般で、1-3月と4-6月の受注を比べると、主要アプリケーション別どのように変化するか。

A：1月を底に、2月、3月と少しずつ戻ってきている。4月はさらに増加。4-6月は1-3月に比べ、10%以上の増加となる見通し。

Q：5月、6月も増加基調が続く見通しか。

A：そう考えている。クリスマス商戦に向けて増加していくと思う。これはデジタルコンシューマ機器向け部品全般の受注の動き。自動車用については、日本メーカーはタイ洪水の影響も終わり回復基調だが、欧州メーカーは横ばいか若干弱いといった状況。中国はこれまで高い伸びを示していたが、徐々に成長率は鈍化し始めた。

Q：半導体部品関連事業の2013年3月期の売上高予想は1,800億円と伸びが大きいですが、四半期別にどのような売上計画となっているのか。

A：半導体部品関連事業については、これまでと異なる部分がある。セラミックパッケージで一番規模が大きいのは水晶/SAWデバイス用パッケージ。

2013年3月期は、特にCMOSイメージセンサー用セラミックパッケージを増やしていく。CCDは主にデジカメに使われ、CMOSは携帯電話に使用されている。CMOS用パッケージは画素数の増加や薄型化により伸びている。2013年3月期は、大手のスマートフォンメーカーにCMOSイメージセンサー用セラミックパッケージが採用されることになったことから、イメージセンサー用セラミックパッケージが大きく伸びる。

四半期別の売上計画だが、通常、2Q、3Qでの引き合いが多いため、夏場から秋にかけて伸ばしていくことになると思う。1-3月の水準から、20%程度は増加する。

Q：CMOSイメージセンサー用パッケージだけの2013年3月期の売上高は、2012年3月期比どの程度伸びるのか。

A：2倍以上になる予想。

Q：京セラディスプレイの2013年3月期の業績はどの程度か。年間売上900億円規模の会社と聞いているが、2013年3月期に900億円の売上が電子デバイス関連事業に入っているとすると、京セラディスプレイ以外の事業が伸びないよう見えるが。

A：年間 900 億円規模の会社だが、2012 年 2 月に買収したため、2012 年 3 月期に 2 ヶ月分の売上が入っている。京セラディスプレイの売上高は、2013 年 3 月期と 2012 年 3 月期との比較では 700 億円程度の増収要因となる。
当社単体のデジタルコンシューマ機器向けの部品は 15%程度伸びる計画。
半導体部品関連事業の 2013 年 3 月期売上高予想は、2012 年 3 月期比 17%増、電子デバイス関連事業は同 35%増となるが、伸び率の違いは京セラディスプレイの貢献分。

【AVX への行政命令】

Q：米国環境保護局（当局）からの AVX への行政命令について、どのような経緯でこの行政命令が出たのか。また、401 百万米ドルの浄化費用が掛かるということだが、どのようなリスクを見ておけば良いか。

A：現在、命令書の内容を精査しているところ。401 百万米ドルは、当局が試算した、今後、浄化作業にかかる費用の総額であり、これを全て AVX が支払うという意味ではない。

Q：ニューベッドフォード湾の浄化費用として、AVX は既に 66 百万米ドルを支払っているとあるが、今回は 66 百万米ドル以上の金額になるのか。

A：分からない。

本件については、詳細が分かり次第、速やかに開示する。

以上